

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 6 —桜を愛でながら神話の国へ—

岡山大学 工学部 機械工学コース 助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行(47 都道府県を踏破済)。

はじめに

昨年4月から始まった本連載も、お陰様で2年目を迎えました。季節も一巡りして、また春がやってきました。一年前に掲載された最初の記事は山陰（堺港、余部鉄橋）でしたが、今回は初心に戻り、春にふさわしく、岡山から桜を眺めながら山陰へ抜け、神話の国、出雲の旅をご紹介します。



伯備線の車内から高梁川沿いの桜を愛でる。普通列車なら桜もじっくり見ることができます。

1. 神話の国へは普通列車でのんびり行こう!! 伯備線、山陰本線

島 根県の出雲大社は「パワースポット」や「縁結び」といったキーワードで話題を集めています。今回の旅行記では、神話の国、出雲の旅を取り上げます。まずは岡山から中国山地を越え、出雲市までの伯備線、山陰本線



何度も川を渡りながら、山深い区間を走る伯備線。新見から米子の間は、たった1両のディーゼルカーで運行される普通列車もあります。

の旅と、1990年に廃止されたJR（旧国鉄）大社線の遺構についてご紹介します。

伯備線は、倉敷で山陽本線から分かれ、鳥取県の西の端にある米子市を結ぶ路線です。中国地方には、山陽と山陰を結ぶ路線がいくつかありますが、全線が電化されているのは伯備線だけで、岡山駅

で新幹線から乗り換えて米子やさらに先の山陰本線の駅である松江、出雲市に向かう多くの旅客を運ぶ重要な役割を果たしています。岡山からだ、特急「やくも」で出雲市まで約3時間。乗り換えもなく快適な旅が楽しめます。しかし「フーテン旅行記」としては、普通列車の旅をお勧めしたいと思います。途中、新見で各駅停車を乗り継ぐと米子まで特急の倍近い時間がかかりますが、岡山県内では高梁川、新見から先の山を越えて鳥取県に入ると日野川が車窓に寄り添い、飽きることはありません。特に、桜の季節ですと川沿いに咲く桜を愛でながら、楽しい道中になることでしょう。また、岡山県と鳥取県の県境を越える普通列車は1日にわずか8往復しかなく、昼間と夜間の合計2往復は、たった1両のディーゼルカーで運転されるなど、特急列車

が1時間おきに走る幹線には似つかわしくない趣です。

途中でお腹がすいたら、米子駅で山陰本線への乗り換え時間を使って、米子名物の吾左衛門鮓（ごぞえもんずし）を駅構内のそば屋さんでいただくのも旅の楽しみです。駅の構内を行き



米子駅の吾左衛門鮓(左)。分厚い締めサバが昆布で巻かれ、寿司飯と絶妙なハーモニーを奏でます。温かいそば(右)と食べると美味です。

交う色とりどりの列車を眺めながら美味しいお寿司を頬張るのは、鉄道旅行好きには至福のひとつと言えましょう。

米子から出雲市までは、各駅停車でさらに1時間少々かかりますが、松江の前後で車窓右側に見える宍道湖などを眺めていると、退屈する間もなく出雲市駅へ到着します。出雲市駅は出雲大社をイメージした立派な駅舎を持つ高架駅です。



出雲市駅の全国的にも珍しいソバの駅弁。ゆでたてを容器に入れてくれるので、車内でもソバの香りを楽しめます。

この駅の名物駅弁は、出雲そば弁当。駅構内のそば屋さんで注文すると、少し時間はかかりますが、ゆでたてを容器に詰めてくれます。

ここから出雲大社へ向かうには一畑（いちばた）電車かバスを使う必要がありますが、1990年までは出雲市駅からJRの大社線が、出雲大社の近くの大社



レールやホームが残る大社駅跡。現役時代には、大都市から来た多くのお客が降り立ったことでしょう。

駅まで運行されていました。今でも一畑電車の出雲大社前駅から10分ほど歩いたところに大社駅跡があり、堂々たる木造の駅舎が残っています。レールやホームも残る広い駅跡に立つと、東京や大阪から国鉄の急行列車が乗り入れていた頃の賑わいが目に浮かぶようです。



出雲大社の玄関にふさわしい、堂々たる大社駅の駅舎。JR(旧国鉄)大社線廃止後も大事に保存されています。

(岡山大学職員組合 組合だより 188号より再掲)

2. 神話の国を走るローカル私鉄 一畑電車

岡山から伯備線、山陰本線の普通列車を乗り継いで、はるばる出雲市までやってきました。ここから出雲大社へは、路線バスか一畑（いちばた）電車で約20分です。当然「フーテン旅行記」としては、JRの出雲市駅に隣接する電鉄出雲市駅から「ばたでん」こと一畑電車に乗ってみたいと思います。

一畑電車は山陰唯一の私鉄で、松江市内の松江しんじ湖温泉駅と出雲市駅を結んでおり、さらに途中の川跡（かわと）駅から出雲大社前駅



川跡駅で並ぶ東京（左）と大阪（右）から来た名車達。白い電車の横に立つオレンジ色の服の方が「電車アテンダント」で、不慣れな観光客にも優しく電車の行先や乗換の案内をしてくれます。



夕日の中を石積のホームから離れていく正面2枚窓の電車。どこか懐かしい風景だと思いませんか。

を結ぶ支線から成ります。松江しんじ湖温泉駅は、JRの松江駅からかなり離れたところにあり、両駅間の移動にはバスやタクシーが便利です。一畑電車の特徴は、高度成長期に大都市で活躍した電車が今でも元気で走っていることです。東京や大阪の大手私鉄で引退した車両を2両編成に短く改造して、今でも大事に使っています。特に大

阪から移籍してきた車両は、高野山へ登る行楽客に利用されていたもので、働く場所は変わったものの、登場から50年以上が経過した今日も出雲大社へお参りする行楽客を運んでいるところに何かの縁を感じます。また、東京から移籍してきた車両にも、様々なラッピングが施され「ご縁列車」という



運よく電鉄出雲市駅で「ご縁電車」に出会うことができました。車体には島根県の黄色い観光マスコット「しまねっこ」も描かれています。

可愛いピンク色に変身した車両もあります。何でもこの「ご縁電車」は、鉄道を使った婚活イベント「鉄コン」にも使われるようです。

鉄道ファンにとっては、東西の私鉄の名車が地方で第二の人生を送りながら仲良く並ぶ様子は楽しく、また昼間の一部の電車では「電車アテンダント」という案内係の方が、バスガイドさんのように沿線の見どころを次々に紹介してくれるので退屈する暇もありません。途中の川跡駅で松江しんじ湖

温泉行から出雲大社前行き電車に乗り換えると、あっという間に終点に到着します。出雲大社前駅から出雲大社へは徒歩10分ほどで、詳しい説明は観光ガイドブックに譲りますが、正面の鳥居から本殿に続く松並木は、いつ来ても見事の一言です。バスで来ると本殿の近くにある駐車場で乗り降りすることになり参道は歩けませんので、鉄道での来訪をお勧めしたいと思います。

なお出雲大社前駅から出雲大社と逆方向へ10分ほど歩くと、前回ご紹介したJRの大社駅跡があります。

さらに時間の余裕があれば、出雲大社からバスで約20分、足を伸ばして日御碕（ひのみさき）へ行くのも良いでしょう。ここには灯塔の高さで日本一を誇る出雲日御碕燈台があるほか、「日沈の宮」



夕日に照らされた日御碕神社。広い境内を持つ、落ち着いた趣の神社です。

と呼ばれる日御碕神社があります。さらには海岸線に沿って遊歩道といくつかの展望台も整備され、日没の時間に訪問すると、日本海に沈む夕日の美しさに息を飲みます。夕方まで出雲大社の周辺で過ごし、夕日の時間に合わせて訪れるのも一興です。

出雲をのんびりと走る一畑



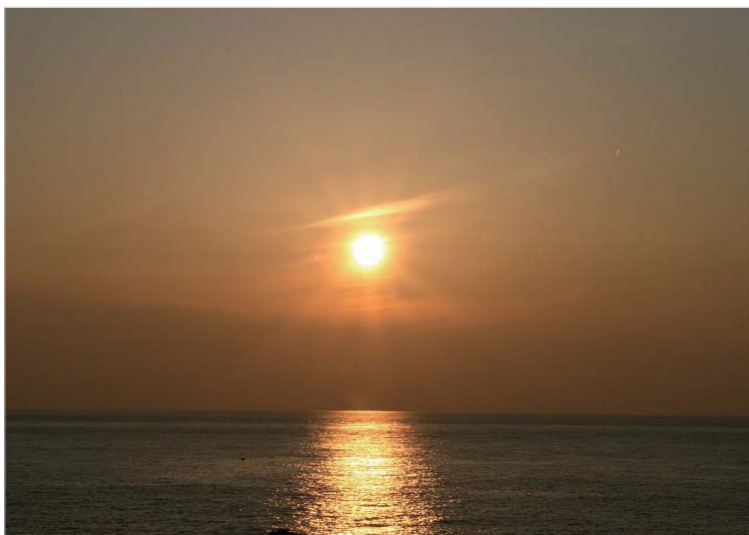
出雲大社の入口にある鳥居と満開の桜。ここから見事な松並木の参道が続きます。

電車、車を使った旅行とは少し違った、充実した移動時間を楽しめることでしょう。神話の国にふさわしい、ゆったりとした旅行もいいものです。

(岡山大学職員組合 組合だより189号より再掲)

おわりに

著 名な観光地には、特急列車で行き、現地での滞在時間を長く確保したいという方が多いと思います。しかし、目的地に向かうまでの列車から眺める風景もまた、大事な旅行の一部ではないでしょうか。もちろん、時間に余裕が無い時は、特急列車が便利ですが、もし比較的余裕がある場合は、途中で普通列車に乗ってみるのも良いものです。普通列車であれば、沿線の桜や川の表情を楽しむこともできますし、地元の方言なども聞こえてきます。慌ただしい時間を忘れてしまったら、ぶらりと普通列車で旅に出るのもいいかもしれません。



日御碕から眺めた日本海の夕日。
とにかく美しいの一言で、晴れた日の夕方の訪問をお勧めします。